

生活科・総合的な学習委員会

1. 研究テーマ

「子どもが自分なりの願いを持って追究し、人やものとのかかわりを深めていく
生活科・総合的な学習の指導はどうあったらよいか」

2. 研究課題

(1) 「子どもが 自らの願いをもち 心を動かし、対象に働きかける 生活科学習はどうあったらよいか」という井上小学校さんのテーマに基づき、さらにサブテーマとして、～一人ひとりの育ちによりそい、その子のよさをのばす評価とは～という所に重点をおき、単元をたちあげるまでの様子や、自分たちでないとできない、うこっけいの世話をしている中で出てきた子どもたちの姿を追ってきた。評価としても、飼育だけに限らず、うこっけいを大切にしていけることは、どういうことをしていけることなのかを考えるとところまで、進んできた。

(2) 研究授業

- ①平成16年6月30日(水) 井上小学校1学年 授業者 高橋 幸恵教諭
単元名 『作ろう! 遊ぼう! 1年竹組ダンボールの町』
- ②平成16年11月2日(火) 井上小学校2学年 授業者 徳永 弘美教諭
大単元名 『ぼくたち わたしたちの うこっけい』
小単元名 『うこっけいし金をあつめよう』

3. 指導の実際

(1) 井上小学校の学校目標は、①【声をかけあって友だちとなかよくする子】、②【自分の考えをはっきり伝える子】、③【気づいてすすんで働く子】と願う子どもの姿から、上記にもあるような研究テーマを設定した。昨年度からの研究から身のまわりのものや人・自然・地域素材の中で、しかも子どものペースに合わせ子どもたちの発想を重視し、特に単元の立ち上げの段階でじっくりと時間をかけてきた。さらに、今年度は、一人ひとりの学びをしっかりと見つめ、子どもたちの願いにそった教師の支援を考え、その子によりそった評価をしてきた。

(2) 『うこっけいし金をあつめよう』の授業では、1年生の12月からうこっけいの世話を続けているので、子どもと対象への関わりが、かなり深まってきている。2年生の4月には、待望のふ化をすることができた。さらに、他の学級へも知ってもらいたい、という願いから、歌を歌ったり、うこっけいとのふれあいの会を開いたりした。

そうした活動の中にもエサ当番を忘れたり、掃除をしなかったりすることもあった。突然のひなの死を経験することで、当番活動をしっかりやることも決めだしていった。

活動が進むと、うこっけいを飼っていくには、お金が必要だということをわ

かってほしい、お金を集めるのはどのようにすればいいのかということを知ってほしいという担任の願いから、し金集めをし、これからどうやって関わっていこうかを話し合うことで、子どもたち自身が考えることができる授業であった。20人という少ない学級だが、うこっけいを飼っていくことは、なかなか大変なことだということも、子どもたちが感じていける授業であった。

- (3) まずは、個々の見取りを座席表子どもたちの願いや、今、感じていることを、書いてためていった。子ども自身も自分で書いた学習カードを見ながら自己評価をすることができた。授業改善については、今後の課題としていきたい。

4. この事例から明らかになったこと

(1) 上記3の(1)について

- 単元の立ち上げを急がず、まずは地域を知り、子どもたちのペースに合わせ、活動をしていくことが大切である。

(2) 上記3の(2)について

- 飼育についての活動は、大変だなということが多い。でも、生き物にふれる、命の大切さがわかることについては、なくてはならない活動だと思われる。2年生も、鳥インフルエンザが騒がれる中、マスクをして、帽子をかぶり、手袋をして、うこっけいの小屋に入って世話をしている。そこに子どもたちが、自らが願いをもち 心を動かし 対象に働きかける姿が見られたと思う。

5. 来年度への課題

- (1) 井上小学校さんのテーマと本研究委員会とのテーマの結びつけ方がうまくできていないことが、一つの課題である。来年度は、まず、生活科・総合的な学習委員会の研究テーマをもう少し焦点をしぼって考えていく必要があるように思われる。
- (2) 例年、『生活科』としての授業が多いので、中学の先生方はよくわからないという声を聞いた。『総合的な学習』の授業を見ていただくことができれば、良いのではないかと思う。

6. その他

- 来年度、上高井郡での研究がまた大きく変わるというので、「できれば、授業を提供します。」という声が欲しい。推進委員を決める時から時間がかかるようでは、消極的で困ることが多い。指導案に時間をかけずに、もっと気軽に授業を見合えるという体制にならないのか。